

教材としてのサムルノリ【学習指導要領との対応表】

	A 表現					鑑賞
	器楽の活動			音楽づくり		
	イ	ウ	エ	ア	イ	
曲想	音色	互いの楽器の音や副次的な旋律	即興的に表現	音を音楽に構成		
小学3・4年	イ 曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。	ウ 音色に気を付けて旋律楽器及び打楽器を演奏すること。	エ 互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。	ア いろいろな音の響きやその組合せを楽しみ、様々な発想をもって即興的に表現すること。	イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくること。	
学習指導要領の記述(要約)		(p42) 打楽器については、低学年で経験した楽器を含めて、和太鼓などの和楽器や諸外国に伝わる打楽器を学習内容に応じて適切に取り扱い、我が国の音楽や郷土の音楽、諸外国の音楽に対する関心を高めるようにすることが重要である。	(p42) リズムや主な旋律、副次的な旋律や和声が生み出す響きを感じ取って演奏できるようにすることが大切である。また、重奏や合奏による活動の楽しさを味わい、気持ちを合わせて演奏しようとする意欲を育てることが重要となる。	(p43) 一つの楽器でも音の高さや演奏の仕方を変えることによって響き方が異なったり、楽器の材質によって音の特徴や雰囲気や異なったりすることに気付くように配慮する必要がある。		
合致するサムルノリの特徴		サムルノリは、韓国の伝統打楽器による演奏であり、外国の音楽に対する関心を高めることにつながる。	サムルノリは、多様なリズムパターンがある。また、各種の楽器が異なるリズムパターンを演奏しながら、合奏する音楽である。自分の担当した楽器を演奏するだけでなく、他者と合奏することで、一体感を感じることができ、合奏の楽しさを味わうことに適した教材である。	サムルノリの音楽の代替楽器を探す過程において、楽器の材質の違いによって、音の特徴や雰囲気が違うことに気付くことができる。また、サムルノリは、リード楽器が即興的に曲の始め・終わりを調節したり、テンポの緩急、異なるリズムへの移行を提示したりする演奏形態である。		
	曲想	楽器の特徴	各声部の楽器の音や全体の響き	即興的に表現	音を音楽に構成	
小学5・6年	イ 曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。	ウ 楽器の特徴を生かして旋律楽器及び打楽器を演奏すること。	エ 各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。	ア いろいろな音楽表現を生かし、様々な発想をもって即興的に表現すること。	イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること。	
学習指導要領の記述(要約)	(p57) 高学年では、児童は様々な表現の仕方を工夫するようになる。このような児童の実態を踏まえて、表現を工夫する手掛かりを音楽を形づくりにすることが重要である。	(p58) 高学年になると、多様な音楽に対する関心や楽器の演奏の仕方への意欲が高まっていく。このような児童の実態を踏まえ、楽器の音色や音域、演奏の仕方による音色の変化などを生かした表現方法を身に付けるようにすることが大切である。	(p58) 重奏や合奏においては、自分の演奏や全体の中で調和させて演奏することが求められる。各声部の役割は、一つの楽曲の中でも変化することがある。それらの役割を理解し、強弱などを工夫して表現することが、全体として調和のとれた演奏になる。したがって、各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴きながら演奏することが重要である。	(p59) 「即興的に表現する」とは、あらかじめ楽譜などに示されているとおりに表現するのではなく、その場で直観的に選択したり判断したりして表現することである。	(p60) 音を音楽に構成する過程においては、児童がつくる過程を楽しみながら試行錯誤し、考えたり判断したりしながら創意工夫する活動を楽しむようにすることが大切である。また、音楽の仕組みを生かし、つくる音楽の形やそれに至る方法などを考えるなど、見通しをもってまとまりのある音楽をつくることが大切となる。	(p64) (前略) 諸外国で多くの人々に親しまれ伝えられている音楽など、我が国の伝統や文化への理解を深め、諸外国の文化への興味・関心をもたせる音楽を教材として選択することが考えられる。
合致するサムルノリの特徴	サムルノリの演奏では、演奏の途中でテンポを速くしたり遅くしたりする、一旦演奏を止める、音の強弱を工夫する、演奏の始め方や終わり方を工夫する等、様々な表現の工夫が可能である。	サムルノリを代替楽器で演奏することにより、普段扱わない楽器を表現方法を工夫して、演奏することになる。その過程において、楽器の音色や音域、演奏の仕方による音色の変化などを生かした表現方法を身に付けることができる。	サムルノリは、各リズムパターンを合わせるだけではなく、全体の響きを感じることが重要な教材である。拍を合わせるために、互いの呼吸を合わせることで、グループ内でのコミュニケーションの大切さを感じることができ、	サムルノリは、リード楽器が即興的に、曲の始め・終わりを調節したり、テンポの緩急、異なるリズムへの移行を提示したりする演奏形態である。	サムルノリは、テンポやリズムの組み合わせに関して自由度が高く、創作過程も楽しむことができる。また、創作活動において、曲の構成を考えるなど、見通しや曲のまとまりについて考えることができる。	サムルノリは、韓国の伝統的な打楽器を使った演奏であり、固有のリズムパターンを持っている。韓国の伝統音楽に触れることを通じて、日本以外、ひいては、諸外国の音楽文化に興味を持つことができる。

	器楽の活動			創作		鑑賞
	ア	イ	ウ	ア	イ	
	曲想	楽器の特徴、基礎的な奏法	声部の役割や全体の響き	言葉や音階などの特徴、簡単な旋律	イメージ、音素材の特徴、反復、変化、対照などの構成	
中学1年	ア 曲想を感じ取り、表現を工夫して演奏すること。	イ 楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏すること。	ウ 声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて演奏すること。	ア 言葉や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律をつくること。	イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること。	ウ 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り、鑑賞すること。
学習指導要領の記述(要約)	(p28) この事項は、曲想を感じ取り、表現したい思いや意図を持って、表現を工夫して演奏する能力を育てることをねらいとしている。	(p29) 楽器の構造や奏法を知り、その楽器固有の音色や響き、よさなどをとらえることである。学校や生徒の実態に即して必要に応じて様々な種類の楽器を用いることで、楽器の音を音楽の素材としてとらえ、その楽器の音でしか表せない表現を体験させることで音楽表現の豊かさや美しさに気付かせることが考えられる。	(p30) テクスチャや強弱に着目し、ある声部の音量を変化させ、その声部の機能や効果について感じ取る活動を行うことが考えられる。また、声部を一つずつ重ねてみたり、ある声部を除いてみたりすることで、全体の響きや表情が豊かになったり変化したりするを感じ取る活動を行うことも考えられる。		(p32) 「反復、変化、対照など」とは、音を音楽へと構成するための原理を例示したものである。例えば、ある短い旋律やリズム・パターンを反復、変化させながら、ある程度の長さをもった音楽をつくることで、音楽を構成する原理を体験的に学習することとなる。	(p33) 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽のそれぞれの特徴を比較して聴き、共通点や相違点、あるいはその音楽だけに見られない固有性などから音楽の多様性を感じ取ることができるようになることが大切である。
合致するサムルノリの特徴	サムルノリの演奏では、演奏の途中でテンポを速くしたり遅くしたりする、一旦演奏を止める、音の強弱を工夫する、演奏の始め方や終わり方を工夫する等、同じリズムであっても、曲想を変化させることができる。	代替楽器で演奏することにより、普段扱わない楽器を表現方法を工夫して、演奏することになる。その過程において、楽器の音色や音域、演奏の仕方による音色の変化などを生かした音楽表現の豊かさや美しさに気付かせることが考えられる。	サムルノリは、自分の担当した楽器を演奏するだけでなく、他者と演奏することで、一体感を感じることができ、演奏の楽しさを味わうことに適した教材である。		サムルノリは、反復させたり、変化させたりすることで成り立っているの、創作活動において、曲の構成を考える過程で育まれる能力に目を向けた指導が可能になる。	サムルノリは、韓国の伝統的な打楽器を使った演奏であり、固有のリズムパターンを持っている。日本の和太鼓等を使った音楽と比較して聞くことで、音楽の固有性、多様性に気付くことができると考えられる。
	曲想	楽器の特徴、基礎的な奏法	声部の役割や全体の響き	言葉や音階などの特徴、簡単な旋律	イメージ、音素材の特徴、反復、変化、対照などの構成	我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽
中学2・3年	ア 曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して演奏すること。	イ 楽器の特徴を理解し、基礎的な奏法を生かして演奏すること。	ウ 声部の役割と全体の響きとのかかわり理解して、表現を工夫しながら合わせて演奏すること。	ア 言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくること。	イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくること。	我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して、鑑賞すること。
学習指導要領の記述(要約)	(p45) この事項は、曲想を味わい、表現したい思いや意図を持って、表現を工夫して演奏する能力を育てることをねらいとしている。味わうとは、対象から感じ取ったものの価値を自らの感性によって確認することであり、ここには価値を判断することが含まれている。なお、味わった内容をさらに深めていくという観点から、楽曲の成立背景や作曲家についても、必要に応じて学習することが望まれる。	(p46) それぞれの楽器の構造を音色や響き、奏法、楽器の様々な組み合わせによる表現などの特徴を理解することが学習内容となる。また、その楽器がどのような曲種で用いられたかということや、その楽器を生み出した風土や文化・歴史などについて学習することが楽器の特徴を理解するために有効である。	(p47) それぞれの声部をどのような音色、強弱、奏法で演奏すると全体の響きがよくなるかを聞き取って、表現にいかすような活動を行うことが考えられる。また、音楽の構造を把握し、自分と他の声部の役割を理解するとともに、全体の響きとの関わりを大切にすること、表現意図を確認し合うことが必要となる。生徒同士で音楽表現を練り上げていく過程や、表現を聞きあい、客観的にとらえ、それを更なる工夫につなげる過程などを重視した指導を工夫することが大切である。		(p49) 音を音楽へと構成する楽しさや喜びを実感できるようにするとともに、反復、変化、対照などの音楽を構成する原理のはたらきや、全体的なまとまりが音楽として意味をもたらすことに気付くようにすることが重要となる。	(p53) 単に多くの音楽があることを知識として得るだけではなく、人々の暮らしとともに、音楽文化があり、そのことによって様々な特徴を持つ音楽が、存在していることを理解することである。その理解は、自らの音楽に対する価値意識を広げ、人類の音楽文化の豊かさや美しさに気付くことにつながる。
合致するサムルノリの特徴	サムルノリの演奏において、演奏の途中でテンポを速くしたり遅くしたりする、一旦演奏を止める、音の強弱を工夫する、演奏の始め方や終わり方を工夫する等、様々な表現の工夫が可能である。また、サムルノリの楽器や伝統音楽の歴史について学ぶことができる。	サムルノリを代替楽器で演奏するために楽器を探す過程には2つのアプローチがある。ひとつは、「楽器の由来から着想を得る」方法、もう一方は、「音色や奏法に着想を得る」方法である。サムルノリに使われる楽器の生まれた風土や文化・歴史について学ぶ活動を通して、より一層楽器の特徴を生かした演奏の方法を工夫することが可能になる。	サムルノリは多様なリズムパターンがあり、リズムの組み合わせ方や強弱の違いで構成することができる。また、各リズムパターンを合わせるだけではなく、全体の響きを感じることが重要な教材である。サムルノリの代替楽器の選択や演奏を作り上げる過程で話し合いの場面を設けることができ、全体の響きや個々の楽器の響きを意識しながら演奏に取り組むことができる。		サムルノリは、基本的な楽曲の構成が、リズムを反復させたり、変化させたりすることで成り立っている。そのため、創作活動において、曲の構成を考える過程で育まれる能力に目を向けた指導が可能になる。	サムルノリは、韓国の伝統的な打楽器であり、韓国の歴史や文化に深く根ざしたものである。サムルノリの演奏やサムルノリについての学習を通して、その音楽性や文化について尊重する態度を育むことができる。韓国の伝統音楽に触れることを通じて、日本以外、ひいては、諸外国の音楽文化に興味を持つことができる。